

但該犬狂暴甚シク事急遽ニ出テ官廳ノ免許ヲ受クルニ違アラサルキハ鳥獸獵犯則ノ罪ヲ問ハス

○伺

(明治十年十月一日熊谷裁判所伺)

第一條 茲ニ甲某乙某ノ免許獵銃ヲ預リ中突然野獸ノ田畔ニ出沒スルヲ認メ其銃ヲ以テ人家ニ達彈ノ場所ニ於テ放發スルモノアリ該犯ハ改正鳥獸獵規則第二條全八條ニ照シ兩條共第十七條範圍内ニテ各自科金申付可然ヤ

第二條 其若シ假令ハ茲ニ銃獵免許人コラスシテ無免許銃ニテ市街中ニ在ル禁獵境内ニ於テ達彈ノ人家ニ向ヒ日沒後發砲スルモノアリ逐條之ヲ罰スルキハ銃獵免許人ニ非ラスシテ發砲一次ハ鳥獸獵規則第二條ニ問ヒ無免許ノ銃ヲ所持スル一次ハ明治五年第二百八十二号公布ニ依リ過金五十錢ヲ科シ其他禁獵境内ニ於テ達彈ノ人家ニ向ヒ發砲スルノ二次ハ之ヲ一罪トナシ同規則第八條ニ問ヒ又日沒後發砲スル一次ハ全第十一條ニ問ヒ各自科金申付可然ヤ

○指令

(明治十年十月二十六日司法省指令)

全規則中一事ヲ犯スニ依テ二事以上ニ涉ルキハ一事ニ就テ論シ各別ニ犯セハ各別ニ處分スヘシ
但書情狀ヲ酌量スト雖ハ範圍外ニ出ルコトヲ得ス範圍ヲ設ケス單ニ罰科ヲ定ムルモノ

ハ裁判官ノ見込ヲ以テ輕減スルモ苦シカラサル儀ト必得可シ

○株式

○布告

(明治十一年五月五日第八号布告ノ内)

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ一

第一條 株式取引所ハ株引仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及ヒ日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ奥書ヲ受ケ之ヲ大藏省ニ差出シ大藏卿ノ允許ヲ乞フヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立ス

第三十 株式取引所條例ニ關スル罰則

第三十章 株式取引所條例ニ關スル罰則

ノ事

(明治十一年五月五日第八号布告ノ内)

明治七年(十月)第七号布告株式取引條例

相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

株式取引所條例

(第一章)

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テ

ハ諸般ノ規定ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ奥書証印ヲ受ケ之ヲ大藏

ルニ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ二十万圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ

第四章 役員ノコ

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取
肝煎

其他支配人書記方計簿方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ズ

第二十二條 頭取肝煎ハ

其仲買人賣買上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任ヲリトス

第五章 一般ノ規程

省ヘ差出スヘシ

但創立証書及ヒ定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サレルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保証

ノタメ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債証書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ大藏省ヘ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルコトアルキハ其免狀ハ取消タルヘシ

(第二章)

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取

引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

(第五章)

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買

人トナスコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ關係アル政府ノ官吏

ハ其取引所ノ株主タルヲ許サス

第二十七條 取引所ノ役員タルモノハ其取

引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第三十三條 取引所ニ於

テ違約人ヲ處分スルハ其証據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約ニ依リ相手方ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トシ償ハシメ而シテ其違約人ヲ除名スルニ止マルヘシ

(該條ハ明治十三年四月十五日第二十号布告ヲ以テ改正)

第八章 検査ノコ

第四十三條 大藏卿ニ於

テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第三十 株式取引所條例ニ關スル罰則

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲナス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノタメ緊要ナル地所家屋ヲ餘クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノタメ大藏省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條 取引所ハ諸証據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

(第六章)

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲナスヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第四十條 賣買主ニ於テ諸証據金ノ差入ヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者及ヒ私ニ賣買ノ約定ヲナシ之ヲ公ニセサルモノ等ハ總テ之ヲ違約人トナスヘシ

(第七章)

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ(賣買雙方ヨリ)其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユ

ヘカラス

(第十二章)

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 検査官員ノ命ヲ拒ミ帖簿書類等ヲ差出サ、ルカ又ハ其疑問ニ答弁ナサ、ル者アルハ頭取又ハ其主任者二十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○裁判所呼出
○伺

(明治十一年二月八日京)

○第三十一章 裁判所呼出ニ關スル罰則ノ

事

都裁判所伺

第一條 勅奏官位及ヒ華族ノモノニシテ贖罪罰則等ニ該ル犯罪有之封書尋問ニ及ヒ刑名擬定ノ上之カ處分ヲスヘキタメ家令執事ノ内ヲ召喚スルニ本人自カラ出頭シ即今家事取締上家令等ノ者アラサルニ依リ自身召喚ニ應セシ旨届出ル者之アルハ右贖罪罰則等ノ者ニ限リ刑名上請ニ及ハス直ニ本人ニ宣告シ別段御届ニ不及儀ト心得可然ヤ將タ本人ニ係ルヲ以テ右ノ場合ニ於テハ一ト先歸宅セシメ置右事由ヲ具シ刑名上請濟ノ上處分スヘキヤ

○指令

(明治十一年二月二十一日司法省指令)

第一條 當省十年丁第五十二号達ニ依リ上請ニ及ハス家令代ヲ出サシメ直ニ宣告スヘ

(明治十年一月十七日第五号布告)

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタル者疾病等ノ事故アリテ遅参又ハ不参スルトキハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限マテニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遅参不参スルトキハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

右布告候事

第卅一 裁判所呼出ニ關スル罰則

第卅二 府縣廳ノ布令ニ關スル罰則

○府縣廳布令

○伺

(明治十年五月九日千葉縣伺)

本年第十三號公布府縣廳布達ノ條規ニ違反スルモ
ノ求罰ノ儀ハ管内本籍及ヒ寄留ノ人民ニ限リ候儀
ニテ一時縣下旅寓又ハ通行ノ他管民ハ假令右條規ニ違反スルモ不論ニ措クヘキカ又ハ該犯布達ノ旨趣ヲ知ルト否ヲ分テ問不問ヲ判レ可然哉

○指令

(明治十年五月十七日司法省指令) 伺ノ趣管内本籍及ヒ寄留ノ人民ハ布告布達施行日限ニ依リ處罰シ一時縣下旅寓又ハ通行ノ他管人ハ知否ヲ分テ問不問ヲ判スル儀ト可心得事

○府縣廳呼出

○伺

(明治十一年二月十九日

○第三十二章 府縣廳ノ布令ニ關スル罰則

ノ事

(明治十年一月二十九日第十三號布告)

各府縣廳ヨリ布達スル所ノ條規ニ違反スルモノハ裁判官ニ於テ一圓五十錢以內ノ罰金ヲ科スヘシ
右布告候事

○第三十三章 府縣廳呼出ニ關スル罰則ノ事

事

神奈川縣伺

行政警察規則第二章第六

條中勅奏官及ヒ華族並ニ有位ノ者ハ家令家扶執事

ヲ呼出スヘシト有之然ルニ其名稱ノ者ハ勿論本主

ニ代リテ喚徴ニ應スルモ

ノ無之旨ヲ申立又ハ書面推問ニテ行届サル節ハ直

ニ本人ヲ呼出シ可然ヤ違

註條例違犯者處分ニ就キ書面推問ニテ行届候節其口供及ヒ宣告狀等ハ一般ノ文例ヲ以テ往復可致儀ト相心得可然ヤ相伺候也

○指令

(明治十一年三月十九日內務省指令)

書面伺ノ趣喚徴ニ應スヘキ代人無之又書面推問ニテ行届カサルトキハ奏請ヲ經テ本人ヲ呼出ス儀ト心得ヘキト但書面推問ニテ行届候節ト雖モ其口供宣告等ニ付呼出ヲ要シ若シ代人ナキトハ尙ホ本文ノ手續ニ從フヘシ

○懲戒

○布達

(明治九年四月二十七日

司法省第十四号布達)

官吏懲戒例第十條ニ有

(明治十年五月十九日無号布告)

○第一節 華族懲戒例ノ事

○第三十四章 官吏華族懲戒例ノ事

心故造私罪ニ入ルモノハ職務上ノ罪ト雖用之レテ司法官ニ移シ云々ト有之ニ付テハ以來右等ノ者ハ司法卿若シクハ檢事直チニ之レヲ受ケ司法卿若シクハ檢事ニ於テ其有心故造ニアラズ又律ニ觸レザルコトヲ判スルトキハ之ヲ本屬長官ニ還付シテ其處分ニ任スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

○布告

(明治九年六月八日太政官番外布告)

一准官吏並ニ等外吏ハ本例ニ照シテ處分シ備其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スルモノハ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜處分スヘシ

華族懲戒例

- 第一條 華族ハ國民中貴重ノ地位ニ居ル故ニ其過失或ハ体面ヲ汚スモノハ假令法律ニ觸レサルモ仍ホ之ヲ懲戒ス
- 第二條 懲戒ノ法三種トス 第一譴責 第二謹慎 第三蟄居
- 第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ宮内卿ヨリ譴責書ヲ下行ス
- 第四條 謹慎ハ十日ヨリ少チカラス百日ヨリ多カラサル間外出ヲ禁シ門戸ヲ鎖シ等親ヲ除クノ外面會ヲ許サス其事情ノ重キモノハ位階ノ降級スルコトモアルヘシ

第五條 蟄居ハ位記ヲ止メ外出ヲ禁シ其家

ハ次ノ相續人ニ命シテ相續セシム

第六條 凡ソ懲戒ノ輕重ハ其事情ヲ酌量シ

宮内卿之ヲ審案具狀シ制可ヲ得テ然後施行ス

行ス

第七條 凡華族ノ犯罪法律ニ係ルモノハ裁判官ノ處刑ヲ經シ後宮内卿其輕重ヲ酌量

シ事宜ニ應シ仍ホ懲戒ヲ加フル例ノ如

シ

○第二節 官吏懲戒例ノ專

(明治九年四月十四日第三十四号布告)

官吏懲戒例

(明治九年四月十四日太

○布告

一府縣鄉村社神官ハ地方長官ノ見込ヲ以テ適宜處分シ其免職ニ係ルモノハ處分ノ上教部省ヘ届出ヘシ(該項ハ明治十三年三月二十六日第二十三号布告ヲ以テ廢止ス)

一巡查及ヒ學校其他諸工場等ノ如キ別ニ懲則規則有之分ハ本例ノ限ニ

アラズ

一民費ヲ以テ給俸ニ充ルモノ、罰俸ハ各其民費ニ割戻スヘシ

第卅四 官吏華族懲戒例

政官番外布告

長官懲戒處分心得

一各長官ハ平生其所屬官ヲ監督シ若シ過失アレハ懲戒例ニヨリ處分ス

一過失トハ過誤失錯不注意ニ出ルモノヲ云其怠惰ニ出ル者亦過失トス其素行脩ヲスシテ官吏ノ体面ヲ汚ス者亦過失ニ准シテ懲戒ヲ加フヘシ

一過失ノ事ニ害アル者ハ重キニ從テ論ス其事ニ害アリト云フハ猶改正スヘキ者及ヒ事ニ害ナキモノハ輕キニ從テ論ス

但其情狀ニ從ヒ輕重ヲ酌量スルハ專ラ本

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上

ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條 懲戒法三種 第一譴責 第二罰俸

第三免職

第三條 譴責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ譴責書ヲ付ス

第四條 罰俸ハ一月分ノ一ヨリ少ナカラス三月分ヨリ多カラサルノ俸ヲ奪フ(俸ヲ

追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ每月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿チテ大藏省ニ送付ス)

第五條 懲戒ヲ以テ免職スルモノハ本屬長

官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム 但懲戒ニ由ル

ニアラスシテ免職スルモノハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然ル後ニ免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣並ニ警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條 四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ルモノハ其所屬判任官

一屬長官ノ所見ニ任ス一全僚ノ官吏共同シテ過失ヲ犯スモノハ主任ノ上官(省務ハ省長寮司務ハ寮司長廳務ハ廳長一科一局一掛ノ事務ハ各々其主任長)其責ニ任スヘシ而シテ次官以下遞ニ從テ以テ論ス下官其造意ヲ以テ處行シ猶上官ノ許可ヲ得タル者ハ上下官共ニ均シシ其責ニ任スヘシ下官職權内ノ事ヲ以テ處行シタルモノハ上官其責ニ任セス若シ下官其職權ヲ踰ヘ專斷處行シタルモノハ重ニ從テ論ス一所属官自ラ過失ヲ覺舉シ進退伺ヲ捧ルルトキハ本屬長官之ヲ推糾シ

第卅四 官吏華族懲戒例

其過失ニ止マルモノハ例ニ依リ處分ス其有必故造ニ涉リ司法官ニ付スヘシトスルモノハ懲戒例第十條ニ依リ長官ヨリ之ヲ司法官ニ移ス
 (司法卿若クハ檢事其檢事ヲ置カサル地方ニ於テハ判事)若シ司法官其有心故造コアラヌ又律ニ觸レサルコトヲ判スルトキハ之ヲ本屬長官ニ還付シ長官ハ仍ホ懲戒例ニ依リ處分スルヲ得
 一懲戒ニ依リ免職スルモノハ二ヶ年以上ヲ經ルノ後ニアラサレハ再ヒ收用スルヲ許サス
 一懲戒ニ依ルト否トテ論セズ凡ソ免職スルモノ

ニ於ケルハ他ノ奏任以上府縣官ノ協議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス

第九條 府縣長官警視長官其所属判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルヲ得ルヲ

除クノ外其罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速カニ内務卿ニ届出ヘシ府縣官判事ヲ兼ルモノ其所属判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速カニ司法卿ニ届出ヘシ

第十條 其有心故造私罪ニ入ルモノハ職務上ノ罪ト雖モ之レヲ司法官ニ移シ本屬長官專ニ處分スルヲ得ス

○第三節 巡查懲罰例ノ事
 (明治九年八月五日内務省乙第九十二号布達)

巡查懲罰別紙ノ通改正候條此旨相達候事

巡查懲罰例

第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失

誤アルモノハ其情狀ヲ審按シ俸給一ヶ月

百分ノ一ヨリ少ナカラス一ヶ月ヨリ多カ

ラサル罰金ヲ科シ輕キモノハ呵責ニ止ム

第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル

モノハ免職ス

第三條 凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ルモノハ追徴

スルヲ得

第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

但シ月俸ノ三分一ヲ過クルヲ得ス

第五條 凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スルモノハ相當ノ罰金ヲ科シ尙
ホ其代價ヲ賠償セシム

○郵便

○伺
（明治六年六月廿正日豊岡縣伺）

郵便犯罪罰則第五條郵便物ヲ盜ミ或ハ隱スコアラハ懲役七十日以上絞罪以下ノ刑ニ處スヘシト之レアリ右ハ盜ミ取候モノ強竊盜贓金計算新律ニ照準シ輕キハ懲役七十日重キハ絞罪ニ止リ候儀ニ候ヤ
○指令
（明治六年八月八日司法省指令）
監守盜ノ律條ニ照準シ處

○第三十五章 郵便規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 郵便犯罪罰則ノ事

（明治十二年十二月二十日第四十八号布告ノ内）
明治十三年郵便規則及ヒ罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

郵便犯罪罰則

第一條 驛遞局長ハ郵便ヲ司ルノ任ニ當ルニ雖モ尋常傭夫ノ之レヲ傳送スルモノト全般ニアラス又郵便局ハ危難受負ノ所ニアラス故ニ遞送ノ際信書其他ノ物品ヲ紛失シ或ハ配達ノ間之レヲ誤リ達シ或ハ遲延スルコトアリモ是ヨリ生スル損失不便宜ヲ弁償スル責ニ當ツヘカラサル事

第二條 驛遞局長ハ沒書ヲ開封シ郵便局ハ總テ郵便規則ニ違フ信書等ヲ梗留スルノ權アルコト

第三條 郵便局ヲ勤ルモノ官吏傭人ヲ論セ

ス信書ヲ盜ミ或ハ隱スコトアラハ百三十圓以内ノ罰金ニ處ス但其犯情通貨及ヒ物品ヲ盜ムニ出ル者ハ新律ニ照シテ處斷スヘキ事

斷スヘシ
○伺
（明治八年十二月十九日鳥取縣伺）

郵便取扱役ノ者郵便切手ヲ賣拂代金費用スルハ私借官物ヲ以テ論シ人ノ書狀ヲ開封シ封入ノ金ヲ費用スルハ郵便犯罪罰則第六條新律ニ照シ處斷スヘキトアルコト依リ公用取扱上ニ出ツルヲ以テ是亦私借官物ニ準擬シ改正私借官物律凡監守自盜ト罪同ト云コト仍リ可處斷ハ勿論ノ儀コト金退徴方ノ儀ハ本犯資力限リヲ追シ費用セシ切手代價ノ全數ヲ官ニ没入シ其剩金アラハ差出人コト下付シ闕缺スルモノハ差出人ノ損失トナスヘキヤ然ルニ郵便局ハ

官ノ設立スル所ニ規則及ヒ罰則アリ郵便局及ヒ郵便函ノ外信書ヲ出スル者其罪ヲ科セラル、迄ニテ差出人ノ損失トナルキハ困難ヲ訴ルヤ必セリ右ハ郵便犯罪罰則第一條ニ驛遞頭ハ郵便司ノ任ニ當ルト雖信書其他ノ物品紛失シ云々是ヨリ生スル損失不便宜ヲ弁償スル責ニ當ツヘカラスト有之ト雖前條ノ如キ此條ニ必的スルモノトモ不相見ニ付驛遞寮ヨリ弁償可相成筋ニ可有之ヤ

○指令
 (明治九年二月七日司法省指令)
 郵便局ハ弁償ノ責ニ當ラズト雖本年規則第八十

第四條 總テ郵便ノ信書ヲ盜ムモノハ百圓以內ノ罰金ニ處ス其遞送ノ際行囊行李ヨリ信書ヲ出シテ通貨及ヒ寶器ヲ盜ミ出シ或ハ之ヲ奪ヒ或ハ信書通貨ヲ盜ミ奪ハシタメニ行囊ヲ止メテ其中ヲ探ルモノハ新律ニ照シテ處斷ス

第五條 郵便掛官員及ヒ配達人等尋常ノ信書及ヒ郵便物ヲ遺失スルモノハ三十圓以內ノ罰金其官書官物ニ係ルモノハ重ニ從テ處斷シ書留郵便物ヲ遺失スルモノハ四十圓以內ノ罰金其官書官物ニ係ルモノハ重ニ從テ處斷スヘキ事

但水火盜難ニ依リ毀失スルモノハ此限ニアラス

第六條 郵便局ヲ勤ル官吏傭人ヲ論セス表書ニ記載スル地名明了ナル郵便物ヲ粗忽怠慢ノ故ヲ以テ誤テ郵便規則ニ違フ者ハ十圓以內ノ罰金又故意之レテ他ニ配達スルモノハ六十圓以內ノ罰金ニ處スヘキ事

第七條 郵便局ヲ勤ムルモノハ勿論免許ヲ得タル賣下ケ人ト雖モ郵便切手ヲ羅賣スルモノハ五十圓以內ノ罰金又其羅賣シタル郵便切手ヲ買取ルモノハ二十圓以內ノ罰金ニ處スヘキ事

條中ニ其時ノ次第ヨリ右局ノ官長ヲシテ償ハシムヘシトノ文モ有之ニ付本文伺ノ如キハ驛遞寮ヘ協議ノ上處分スヘシ

○伺
 (明治十年十月四日島根縣伺)

郵便罰則第四條ニ内務卿カ又ハ司法卿カノ免許ヲ受ケス郵便遞送シ信書等ヲ開封或ハ梗留スルモノハ云々トアリ右梗留トハ故ラニ梗塞留滞スルモノニテ郵便局ヲ勤ムル士官雇人信書取扱ノ際誤テ他ノ書類ヘ混シタメニ遞送ノ遅緩ヲナスモノト如キハ該條ニハ擬シカタクニ似タリ果シ然ラハ右ノ如キモノハ長官ノ見込ヲ以テ懲戒例ニ依テ處分スル

ハ格別郵便罰則ニ於テハ明文ナキヲ以テ無罪ト見做シ可然ヤ

○指令
（明治十年十一月廿四日 司法省指令）

郵便犯罪罰則第八條ニ依リ處分スル儀ト心得入シ

○伺
（明治八年十一月廿七日 滋賀縣伺）

先般當縣ヨリ官吏郵便規則ニ違ヒ通貨ヲ封入スル公翰ニ誤テ金子在中ノ旨表記ニ記載セズ遞送スル者亦郵便罰則ニ照シ罰金ヲ科シ候ヤ亦ハ律例ニ照シ違式ノ輕ニ擬シ可然ヤト相伺候處郵便罰則ニ照シ處分スヘシト御指令アリ又官吏官物ヲ授受ノ際誤テ無印紙ノ証書ヲ（証

第八條 郵便物ヲ安全ナラシムヘキ備ヘテ

以テ設ケアル郵便箱ノ中ニ之レアル信書等ヲ故ヲニ損害シ表書ヲ消シ或ハ破ルモノ且之ヲ助クルモノハ六十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第九條 日誌新聞紙其他ノ上木物無封或ハ

開キ封ニテ郵便遞送ノモノヲ故ヲニ破毀或ハ梗留スルモノハ六十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十條 凡情ヲ知りテ他ノ盜ミタル信書或ハ行囊ヲ陰ニ預リ置クモノハ七十五圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十一條 郵便局ヲ勤ムル者ノ盜ミタル品

ヲ知テ買取リ或ハ囑ヲ受ケテ賣ルモノハ百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十二條 信書ヲ遞送シ郵便稅ヲ取ムル特

權ハ獨リ驛遞局長ニ附與スルノミ故ニ何族何官何業ノモノニテモ驛遞局長ノ獨任スル特殊ノ權外ニアラサル信書ヲ一切遞送配達スル者ハ二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十三條 信書ヲ差出スモノト雖モ前條ノ法ヲ犯シ郵便局及ヒ郵便函ノ外ニ之レヲ

送配達スル者ハ二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

券印紙舊規則施行中ノ伺ナリ）受取置クモノハ違式ノ輕重ニ擬シ因テ官ニ損失ヲ生スルハ出納有違條ニ照シ坐贓ヲ以テ論シ可然ヤト相伺候處無印紙ノ証書ヲ受取モノハ罪ノ論スヘキナシ因テ官ニ損失ヲ生セシムルハ其者ヨリ償ハシムト御指令アリ亦御省日誌昨七年第百九十一号宮崎縣ヨリ官吏人民ヨリ差出ス公債証書ヲ誤寫スル儀相伺候ニ公債証書ニ縣名官姓ヲ署スルニ位置ヲ誤ルモノハ其罪ヲ問ハス但誤寫スルモノヨリ其証書ヲ添ヘ事由ヲ申立書換テ乞フハ公債証書條例第十條第四節第五節ノ手續ニ準スヘシト御指令アリ彼是參考ス

第卅五 郵便規則ニ關スル罰則

ルニ凡郵便其他諸規則ヲ犯スモノハ官吏公務上ニテ之ヲ犯スモ亦該規則ニ依リ處罰シ別ニ律例ニ照シ處分セサル平然ラハ官吏公翰ヲ他ニ遞送スルニ誤テ郵便切手ヲ不足ニ貼付シ遞送スル如キモ亦其罪ヲ問ハス因テ之ヲ受取ル官廳ヨリ不足税ノ一倍ヲ拂フキハ其不足税ハ該官吏賠償シメ人民ヨリ不足税ヲ拂フハ其者ヨリ別ニ償ヲ求メサルキハ不問ニ置候テ可然ヤ

○指令
 (明治九年一月九日司法省指令)
 諸規則ハ官吏公務上ニテ犯スモ一般人民全様處置スヘシ

○伺

出ストキハ二十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第十四條 驛遞局長ノ獨任スル特殊ノ權ハ全ク書狀ニ限り新聞紙類書籍見本品及ヒ通貨且書狀ト雖モ左ニ記載スルモノハ此限外タルヘキ事(該條ハ明治十三年一月一日改正)

第一 親屬朋友及ヒ從僕等ヲ以テ直ニ達スル書狀

第二 郵便ニ依リ難キ事故アルヲ以テ特ニ使ヲ發シテ達スル書狀(該項ハ明治十三年一月一日創定)

第三 船或ハ車等ノ持主及ヒ其船車等ヲ以テ積送ル荷物ノ持主ヨリ賃錢手數料ヲ拂ハス受取ラス其船車ノ業且荷物ノ事ニ付キ其召使ノ者ヲシテ互ニ往復配達セシムル書狀

第四 尋常運輸ヲ以テ業トスル者ニ依テ送ル荷物ニ就テ送レル添狀送狀ノ類ニシテ別ニ賃錢手數料等ヲ拂ハス受取ラサルモノ(該項ハ明治十三年一月一日改正)

第五 荷物ニ就テ送レル添狀送狀ノ類ハ無封無緘或ハ開キ封ノモノトス

第十五條 前條ニ記載スル限外信書ノ仕方

(明治八年五月三十一日 筑摩縣伺)

當縣ヨリ差出ス郵便遞送書類等ハ等外吏ヲ以テ其事務ヲ擔當セシム若シ誤テ不足税ヲ生ズルキハ郵便規則第七條ニ依リ二倍ノ税ヲ主任者ニ自償致サ可然ヤ又ハ官物ヲ取扱スヘ事ニ付官費ニ相立失錯ノ罪ハ違式ニ依テ處分シ可然ヤ

○指令
 (明治九年一月廿七日司法省指令)
 等外吏ヨリ不足税ヲ自償セシメ其罪ヲ問ハス

ヘキ事

ヲ偽リ竊ニ之レヲ傳送配達スルモノハ第十二條ニ照シ處斷ス

第卅五 郵便規則ニ關スル罰則

第十六條 驛遞局長ヨリ郵便物ノ運送ヲ約定シタル水陸運輸稼業ノモノト云ヘル郵便切手之レナキ信書ヲ運送或ハ配達スルニ於テハ第十二條ニ照シテ處分スヘキ事

第十七條 郵便切手及ヒはがき封皮ハ諸郵便局並官許ヲ受ケテ大書ノ郵便切手賣下所ノ看板ヲ掲クル家ノ外一切賣ルヲ禁ス之レヲ犯シテ賣ルモノハ百圓以内ノ罰金ニ處シ其賣リタル品並代金且賣ラントスルノ品ヲモ取上ヘキ事

第十八條 郵便局并官許ヲ得テ看板ヲ掲グル家ニアラサルモノヨリ私ニ同種ノ切手及ビはがき封皮三枚以上ヲ買フヲ禁ス之レヲ犯シテ買フモノハ二十圓以内ノ罰金ニ處シ其買受タル品ヲモ取上ヘキ事

第十九條 一度用ヒタル郵便切手はがき封皮帶紙及ヒ拂濟ノ証印等ヲ消シタル墨ヲ洗ヒ或ハ之レヲ削リ取り再度用ヒシモノハ六十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十條 郵便切手はがき封皮及ヒ拂濟証印ヲ偽造スルモノハ九十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十一條 郵便局ヲ勤ムルモノ私書ヲ公書トナシテ往復シ且郵便切手之レナキ書狀等ヲ私ニ取扱フ者ハ百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十二條 郵便先拂稅及ヒ不足稅ヲ最初配達ノキヲ除キ郵便局ヨリ受取ノタメ使テ送ル五度ヲ過キテ猶拂ヒ納メサルモノハ二十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十三條 氏名類似セル郵便物ヲ開封セシキハ速ニ其類似スル所以ヲ記シ之レヲ其近傍ノ郵便局ニ申牒シ郵便局ハ之レヲ

驛遞局長ニ申牒スヘシ若シ之レヲ申牒セス或ハ之レヲ投棄ニ附スルモノハ二十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第廿四條 某官廳某家ニ屬シ又ハ住スル某人ニ名宛シタルヲ以テ某廳或ハ某家ニ配達セシ郵便物ヲ其人ニ達セス或ハ其人官廳ニ屬セス其家ニ住セサルトキ之レヲ郵便局ヘ差戻サス等閑ニ付シ或ハ投棄ニ任スルモノハ三十圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

第二十五條 郵便局ヲ勤ムル官吏傭人ヲ論セス郵便切手ヲ削リ取り不足税ト偽ルモノハ第三條ニ照シテ處斷スヘキ事

第二十六條 郵便配達人其配達先ニ於テ漫ニ金錢ヲ乞フモノハ其乞請タル金錢ヲ取上ケ其金高十倍ノ罰金ニ處スヘキ事

○第二節 郵便はがき紙并封囊發行ノ事

(明治六年十一月十九日第三百八十九号布告)

當明治六年十二月一日ヨリ郵便ハガキ紙并封囊發行候條別紙規則ノ通可相心得此旨布告候事

但ハガキ紙封囊共郵便切手全般ノモノニ付若シ是ニ就テ法ヲ犯ストキハ郵便犯罪罰則ニ照シ處分候事

○第三節 亞米利加合衆國郵便交換條約中ノ罰則ノ事

(明治六年六月七日第六十二号布告ノ内)

亞米利加合衆國郵便交換條約

第四條 日本ヨリ合衆國ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アルトキハ其不足税ヲ取立ルノ外更ニ一通ニ付六セントノ過料ヲ取立合衆國ノ郵便局ニ收入スヘシ又合衆國ヨリ日本ニ受取タル信書ノ郵便税ニ拂不足アルトキハ其不足税ヲ取立ルノ外更

二一通ニ付六錢ノ過料ヲ取立日本郵便局ニ收入スヘシ

○集會
○布告

(明治十三年四月六日第十三号布告)
今般第十二号布告ノ通集會條例被定候ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ此旨布告候事

○伺

(明治十三年八月日不詳長崎縣質問)
今般第十二号ヲ以集會條例公布相成候處右條例中不審ノ件々左ニ相伺候條至急何分ノ御指揮被下度候也

第一款 條例第一條ニ政治ニ關スル事項トアル

○第三十六章 集會條例ニ關スル罰則ノ事
(明治十三年四月五日第十二号布告)
集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

集會條例

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル

タメ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル

ハ現ニ我國ニ施行シタル所ノ政法或ハ各府縣ニテ制定シタル現行ノ施政其他外國ノ政法ト雖モ引用シ來リテ當リニ我國ニ施行スヘシト説クカ如キモノヲ指シタル義ニテ單ニ外國ノ政法本邦ノ古政ヲ講スル等ハ此政治字外ト相心得可然ヤ

第二款 全上第二條ニ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲ結社スルモノハ云々ト有之然ルニ今茲ニ私塾義塾ノ如キモノヲ設立シテ專ラ修學ヲ名トシ集會ヲナスモノアリ此塾中ニ於テ一部政學ノ目ヲ立内外古今ノ書ニ就キ講談論議ヲ聽衆ハ皆其會盟

タメ結社スルモノハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此届出ヲナスニ當リ警察官ヨリ尋問スルコトアルハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アルモノハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲナ

乃チ塾員タルカ如キ集會モ總テ本條例ニ照シ處置スヘキモノニ有之ヘクヤ

第三款 全上第四條ニ管轄警察署ハ云々國安ニ妨害アリト認ムルハ之ヲ認可セサルヘシト有之就テハ當該警察官ニ於テ表面正的ニ其妨害ヲ見サルモ冥々中我國體國政ヲ汚損シ人心ヲ迷惑スルモノアリト見認ムルキハ認可セズ或ハ退去ヲ命シ可申果シテ然ラハ不認カ又ハ退去ヲ命シタル後ニ於テ集會社員アリ其理由ヲ伺出ルモ別段弁明指令ニ及ハサル儀ニ候

第四款 全上第七條ニ陸

スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ國安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セサルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ著シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ証ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルヲアルヘシ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ証ヲ開示セサルトキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ

退去ヲ命シテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ

(明治十三年十二月廿三日太政官第五十六号布告ヲ以左ノ但書ヲ追加ス)

本年(四月)第十二号布告集會條例第六條ヘ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

但本條ノ解散ヲ命シタルキハ其情狀ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官其結社ヲ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於テ一ケ年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事ヲ講談論議スルヲ禁スルヲ得ヘシ

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル

海軍人常備後備ノ名籍ニ在ルモノ警察官々立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得スト有之他官吏ノ明文無之候得共右ハ去ル明治十二年五月九日太政大臣ヨリ相達セラレタル通相心得可然ヤ又官立私立學校ニハ校長幹事等ノ職員ヲ設ケ教員ト異ナルモノアリ此等モ無論教員ト同シテ臨會加入スルヲ得ザルモノト心得可申ヤ

第五款 全上第八條ニ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルヲ得スト有之然ルニ某社會ノ員アリ彼是從來知音ナルヲ以

第卅六 集會條例ニ關スル罰則

テ各自己ノ名面ニテ普通ノ書信ヲ交換シ其土地々々ノ近況ヲ報スルカタメ集會ノ事ヲ記載スル等ハ本ヨリ不問ノ儀ト存候ヘ共之ヲ不問トスルトキハ通信往復ヲ禁スルノ效ナキモノ、如シ果シテ然ラハ共ニ社員會員タリ且其團結ノ方法規約ノ是非ヲ質問スルカ如キハ仮令各自己ノ名ヲ以テスルモ十五條處分ノ手續ヲナスヘキヤ

第六款 今般十三号公布ノ旨ニヨリハ從前集會結社候モノモ右條例ニヨリ更ニ可届出ト有之然ルニ政治ニ關スルモノハ一般此條例ニ照ス勿論ニ候ヘ共既往自今

集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニア
ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒
農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社
ニ加入スルコトヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル
タメ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書
ヲ發シテ公眾ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連結
シ及ヒ通信往復スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル
タメ屋外ニ於テ公眾ノ集會ヲ催スコトヲ得
ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ

共右ノ趣意ヲ異ニシ只
道徳修身ヲ旨トシ又ハ
風教ヲ維持シ問學ヲ旨
トスル等ノ説ヲナシ要
スルコト自己當務ノホテ
立推シテ世ノ衰勢ヲ挽
回セントスルカ如キタ
メノ集會結社講談論議
ハ此集會條例外ニ舍テ
可然ヤ

○回答

(法制部ヨリ回答)

第一款 其解ノ通

第二款 條例ノ限ニアラ

但若シ其舉動民心ニ
妨害アリト觀察スル
トキハ明治十一年第
二十九号達ニヨリ處
分スヘキモノトス

第三款第四款 其ノ見解
ノ通

第川六 集會條例ニ關スル罰則

催スモノ會主ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處
シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ
其講談論議者ハ各二圓以上二十圓以下ノ
罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタルモノ
モ亦本條ニ依ル

第十一條 第二條ノ規程ニ背キ社則或ハ社
員名簿或ハ改則社員ノ出入ヲ定期ニ於テ
警察署ニ届出テス又ハ尋問スル所ノ事項
ヲ開答セサルトキ社長ハ二圓以上二十圓
以下ノ罰金ニ處シ偽作ノ社則又ハ名簿ヲ
届出テ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長

第五款 仮令各自ノ名ヲ以テ通信往復スルモ團結ノ方法規約等ヲ問答スルカ如キハ條例第八條未文ノ精神ニ依リ相成ラサル儀ト思考ス

第六款 其見解ノ通

○伺
（明治十三年五月日不分 神奈川縣質問）

一集會條例中他ノ社ト連結スル能ハサルハ勿論ノ儀ニ候得共若シ爰ニ一社ト稱シ社員ヲ結ビ而シテ此支社ヲ設ケ即チ何社ノ支社ト稱シ社員ヲ結ビ講談論議スルモ本社員並ニ支社員ト相往來ニ講談論議スルモ差支無之筋ニ可有之

但支社結社届ノ節本社員ノ人名ヲ記載シ届出タルモノナリ

ハ右罰金ノ外尙十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出所警察官ノ臨席ヲ肯ンセサルハ會主會長及ヒ社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演說者ノ姓名ヲ尋問スルニ之レニ答ヘス又ハ偽名ヲ答ヘタルモノハ全罪ニ處シ再犯ニ當ルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

第十三條 派出所警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルハ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下

ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處ス

一甲社員ニシテ乙社員トナリ又丙丁戊等數社ノ社員トナリ終ニ全國ノ各社一團結ノ姿トナルモ條例中禁止ノ明文ナキヲ以テ差支無之儀ト心得可然ヤ

○回答

（明治十三年月日不分 法制部回答）

右兩項本例第八條未文ノ精神ニ依リ不相成儀ト思考ス

○伺

（明治十三年六月日不分 明宮城縣伺）

一集會條例第一條中政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲ云々ト有之行政治トハ海ノ内外ヲ問ハス渾テ各國政体上ニ亘ル儀カ又タハ單

第卅六 集會條例ニ關スル罰則

ニ日本政体ニ有之ヤ

一全第三條ノ旨意ハ政治ニ關スル講談論議ノミニ限ラズ彼ノ教導職布教傳道ノタメ公衆ヲ集メ説教ヲナス等ノ如キ者ハ適用候儀ニ可有之ヤ

一全第七條中臨會云々ト有之右臨會トハ傍聴ヲ得サル儀ニ可有之ヤ又ハ至ク會員ニ臨班スルヲ得サル儀ニ候ヤ

一全第八條中政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルタメ其趣旨ヲ廣告シ云々ト有之右廣告トハ會主又ハ會議幹事等ノ名ヲ以テ路傍ヘ揭示シ或ハ會場ノ表ヘ貼示スル等ノ如キモノヲ云フカ且新聞記者ニ於テ傳聞ノ儘新聞紙ヘ掲載候儀ハ指支無之儀ニ可有之ヤ

右指掛居候儀ニ付至急御指令有之度候也

○指令

ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ

處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スルモノ

モ亦同罪ニ處シ脅迫スルモノ及ヒ罪再犯

ニ當ルモノハ十圓以上百圓以下ノ罰金若

クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社

長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社

ヲ禁ス

第十六條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限

ニアラス

(明治十三年五月十三日不詳内務省指令)

同ノ通左ノ通心得可

第一條 同ノ通

第二條

政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルモノニ限ルヘシ

第三條 都テ臨會相成ラズ

第四條 同ノ通

○代言

○布達

(明治十三年五月十三日

司法省甲第二号布達)

明治九年甲第壹號但書同

甲第四号ヲ以テ詞訟代人ノ

儀相達置候處今般代言人

規則改正ニ付右代人ノ儀

左ノ通可相心得右布達候

事

詞訟ニ付原被告又ハ引合

人等疾病事故アリテ出頭

シカタキ時又免許代言人

之ノナキカ又ハ已ムヲ得

サルノ事情アリテ代言ヲ

委託シカタキ場合ニ於テ

ハ戸長又ハ區長ノ公証ヲ

(明治十三年五月十三日司法省甲第一号布達ノ内)

○第卅七章 代言人規則ニ關スル罰則ノ事

明治九年當省甲第一号代言人規則左ノ通改

正候條此旨布達候事

但該規則ニ抵觸スル從前ノ布達ハ總テ廢

止タルヘシ

代言人規則 第三款 懲罰

第卅二條 代言人左ノ條件ヲ犯スルハ輕重

以テ親屬又ハ相當ノ者ヲ代人トナスヲ得然レトモ其代人タル者ハ一事件ヲ限り受任スヘシ若シ二件以上ヲ受任シ又ハ詞訟ヲ教唆シ私利ヲ營ム等ノ事アルトキハ裁判官ニ於テ直ニ其代人ヲ停止スヘシ

○布達

(明治十三年五月十三日 司法省丙第九号布達)

大審院 諸裁判所
檢事 府 縣

今般司法省甲第一号ヲ以テ改正代言人規則布達候ニ付テハ左ノ通り相心得此旨相達候事

一 現今代言免許期限中ノ者ハ其期限ヲ終ル迄免許狀引替ニ及ハズ尤モ期限中ハ改正免許狀ヲ受ケタル者ト同様大審

ヲ量リ第二十三條及ヒ第廿四條ニ因テ懲罰スヘシ

一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者

二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲナスモノ

三 訟廷ニ於テ相手方ヲ凌辱罵言シタル者

四 詞訟ヲ教唆シタル者

五 証據トナルヘキ者ヲ捏造シタル者

六 他人ノ詞訟ヲ買取リ自己ノ利ヲ圖ル者

七 強テ謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者

八 故サラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲナシタル者

九

院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言スルヲ得ルモノトス

議會組合ノ外私ニ社ヲ結ビ號ヲ設ケ營業ヲナシタル者

十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第二十三條 懲戒ノ目左ノ如シ

- 一 譴責
- 二 停業
- 三 除名

第二十四條 所犯法律ニ當ルモノハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第廿三條ノ罰目ヲ併科スルコトアルヘシ

第二十五條 譴責ハ止タ呵責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニアラサレハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重キモノハ終身之ヲ許サス

○第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタルモノアルトキハ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ揭示スヘシ

○酒造

○布告

(明治十三年九月廿七日
第四十号布告ノ内)

酒造稅則

第一章 免許鑑札稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造

シテ營業セント欲スル

モノハ其旨管廳ニ願出

酒造場一ヶ所毎ニ免許

鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ

三類トシ免許ヲ受ケタ

ルモノハ總テ之ヲ製造

スルヲ得ヘシ、一類釀

造酒(清酒濁酒其他釀

造シタルモノヲ云)、

二類蒸溜酒(燒酎其他

蒸溜シタルモノヲ云)、

三類再製酒(酪酒味淋

白酒等釀造蒸溜ノ酒類

○第三十八章 酒造稅則ニ關スル罰則ノ事

(明治十三年九月廿七日第四十号布告ノ内)

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨ

リ施行シ從前ノ酒類稅則ハ全日ヨリ廢止候

條此旨布告候事

酒造稅則

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒をとヲ販賣スルヲ許

サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代

造スルヲ許サス

第二十三條 檢査未濟ノ酒類ヲ販賣シ又ハ

自家ノ所用ニ消糜スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒(搾リ蒸溜)器械ニハ管廳

主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキ

ハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ

封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出

再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタルモノハ其節管

廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造

方法共届出ヘシ但種目變換並見込石數ノ

増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ属スル倉庫納屋並ニ諸

ヲ調和シ又ハ之ヲ元ト
シテ製造シタルモノヲ
云)

第三條 免許ヲ受ケタル

者ハ免許稅及造石稅ヲ

納ムヘシ其額左ノ如シ

○酒造免許稅酒造場三

ヶ所ニ付金三十圓○酒

類造石稅一類一石ニ付

金二圓、二類一石ニ付

金三圓、三類一石ニ付

金四圓

第四條 免許ハ其年十月

一日ヨリ翌年九月三十

日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フモノ

ハ毎年九月三十日マテ

ニ管廳ニ願出ツヘシ

右期日ヲ過クレハ免許

セサルモノトス

第六條 免許鑑札賣買讓

與スルハ双方連印ノ

第卅八 酒造稅則ニ關スル罰則

願書ヲ管廳ニ差出シ管
換ヲ請フヘシ
第七條 免許鑑札ヲ失却
毀損スルカ或ハ代替改
名轉居セシトキハ其旨
管廳ニ願出再發又タハ
書換ヲ請フヘシ

器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ増減ハ時々届
出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石
造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書

載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタルモノハ其酒類及

製造諸器械トモ沒収シ免許稅二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キ
タルモノハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘ
シ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ
追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スルモノハ第二十九條ニ據テ
處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ免許稅相當ノ金額
ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケスシテ賣捌キタルモノハ其代
價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科ス
ヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒収シ其
酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(但未製
成ノ酒類(又とらるゝ)ノ類ト雖モ隱蔽シタルモノハ本條ニ據
テ處分ス)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタルモノハ其石數
ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯

スルモノハ一圓ヨリ少ナカラス三十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ

科スヘシ

○儲麴

○布告

(明治十三年九月二十七日第四十一号布告ノ内)

儲麴營業稅則

第一章 免許鑑札

第一條 凡ソ儲麴(醸造

酒類ノもど)ヲ製造シ

テ營業セント欲スルモ

ノハ其旨管廳ニ願出製

造場一ヶ所毎ニ免許鑑

札ヲ受ケ一期營業稅ト

シテ左ノ通納ムヘシ

儲麴營業稅金五十圓

第二條 營業免許ハ其年

十月一日ヨリ翌年九月

三十日マテヲ以テ一期

トス

第三條 一期中何月ニ新

規免許ヲ受クルモ營業

稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘ

シ

第四條 免許ヲ受ケタル

者ハ其一期中販賣見込

ノ石數毎年十月中管廳

ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石

數並ニ購求者居所姓名

及ヒ年月日等遺漏ナク

帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スルトキハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ願出再渡又ハ書換テ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタルモノハ儲麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番号ヲ記載シ

戸外ニ掲出スヘシ

○罰金處分

○伺

○第四十章 罰金處分ニ關スル規則ノ事

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第四十 罰金處分ニ關スル規則

○第三十九章 儲麴營業稅則ニ關スル罰則

ノ事

(明治十三年九月二十七日第四十一号布告ノ内)

儲麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨ

リ施行候條此旨布告候事

儲麴營業稅則

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス儲麴ヲ營業スル

モノハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ

徴スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購

求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本

則ニ違犯スルモノハ科料トシテ一圓ヨリ

少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ

徴スヘシ

○第四十章 罰金處分ニ關スル規則ノ事

第卅九 儲麴營業稅則ニ關スル罰則 第四十 罰金處分ニ關スル規則

(明治十二年五月日不分
明大審院伺)

罰金科料徴收ノ儀金員錢
厘毛端數是迄計算上區々
ニ相成候處右錢厘毛端數
ノ金位ハ何位迄ニ限リ致
シ可然ヤ一定仕度此段請
御内訓候也

○指令

(司法省指令)

諸罰則罰金科料計算上厘
毛ノ端數ハ何位迄ニ限止
スヘキヤノ儀ニ付申請ノ
趣ハ厘位迄ニ止ムル儀ト
心得可申此旨及内訓候也

○伺

(明治八年一月廿二日山
形縣伺)

第一條 蠶種生絲其他犯
則ノ者見出シ訴出候者
ハ取上用品無之節ハ科

○第一節 諸罰則中違犯者ヲ見届ケ告訴
スル者ニ褒賞ノ事

スル者ニ褒賞ノ事

(明治十三年二月二十日司法省丙第一号布達)

諸罰則中違犯者ヲ見届ケ訴出ルモノハ其賞
トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之レ
アルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ
全部ヲ完納スル能ハサルキハ實地徴収セシ
金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ヘク此旨相
違候事

但シ本文ニ抵觸セル從前ノ伺指令ハ總テ
取消候事

○第二節 諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セ

罰金ノ十分一給與候様

明治六年十一月第三百

七十九号御布告有之候

處仮令ハ犯則ノ者百圓

ノ科料申付ルニ本犯貧

困ニシテ身代限ニ處シ

收取スル金十圓ナルキ

ハ全部ヲ訴出候者ニ給

與シ可然ヤ

第二條 右全斷身代限收

取スル金五圓ナルキハ

其不足ノ儘給與シ可然

ヤ

○指令

(明治八年二月十八日司

法省指令)

第一條 伺ノ通

第二條 身代限申付候上

科料金ノ金額ニ不足又

ハ取上シヘキ身代無之

候共訴人ヘノ賞譽ハ規

則ノ通別段差遣シ可中

ラルノ者處分法ノ事

(明治十三年三月三十一日第十一号布告)

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラルノ者處分
法左ノ通相定候條此旨布告候事

一 罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セ

シム若シ限内納完セサルモノハ一圓ヲ一日

ニ折算シ禁獄ニ換フ其一圓以下ト雖モ仍ホ

一日ニ計算ス

但シ算シテ禁獄二年以上ニ及ホスヲ得ス

一 禁獄限内罰金科料ヲ納完シ又ハ親屬等代

テ納完スルキハ經過シタル日數ヲ扣除シテ

禁獄ヲ免ス

一罰金科料ヲ買決ノ刑ニ併科シタル中納完セサルモノハ刑期滿限ノ後例ニ照シテ禁獄ス

○第三節 裁判所設置ノ府縣ハ其裁判所ニテ罰金追徴ノ事

(明治六年六月十三日太政官第二百八号達)

本年第十九号布告罰金科料等ノ儀裁判所被置候府縣ハ其廳ニテ右犯罪者發覺スルニ於テハ之ヲ其裁判所ニ送致シ裁判所ニ於テ處斷シ直ニ罰金追徴可致候事

但府縣廳限リ取設候規則タリモ罰金科料ニ類シ候者及裁判上ニ關係シタルモノ總テ其裁判所ニ照知可致事

○第四節 公文中總テ計算上一倍ノ稱呼ヲ止メ二倍ト改定ノ事

(明治八年十二月二日第百八十三号布告)

自今公文中總テ計算上壹倍ノ稱呼ヲ止メ從前ノ諸規則等ニ壹倍ト記載有之分ハ貳倍ト改正候條此旨布告候事

但譬ハ原金高壹圓ノ貳倍ハ二圓拾倍ハ拾圓ト計算候儀ト可相心得事

○第五節 賣淫取締ニ關スル罰金ヲ警察費等ニ遣拂不苦事

(明治九年三月九日内務省乙第二十五号布達)

本年第一号ヲ以テ賣淫取締懲罰ノ儀警視並各地方へ御委任ノ儀公布相成猶又右罰則之儀當省乙第九号ヲ以テ相違候處此罰金ハ各廳ニ預リ置警察費又ハ黴毒検査費貧民教育費等ニ遣拂ヒ不苦尤徴收ノ金高及ヒ遣拂明細共毎三ヶ月分取纏當省へ可差出此旨相違候事

(終)

明治十四年一月廿七日版權免許
同年二月出版

岡山縣士族

小笠原美治

神田區神田五軒町
十八番地

定價金三拾五錢

編纂出版人

東京神田五軒町	弘令本社
同芝三島町	山中市兵衛
同通二丁目	稻田佐兵衛
同通油町	藤岡屋慶治郎
大阪心齋橋通備後町角吉	岡平助
京都寺町通四條上	田中治兵衛

各府縣賣捌所 (東京外)

千葉市場町	乙亥	舍同四日市	伊藤善太郎	越後卷町	笛木又平
陸中盛岡	澤田正助	三州豊橋	高須又八	下總佐原	堤正平
豊前中津	野依曆三	名古屋本町	片野東四郎	甲府柳町	徵古堂
越後高田	小方長吉	岐阜米屋町	三浦源介	橫濱辨天通	丸屋善八
伊勢桑名舟町	大塚茂兵衛	讚州丸龜	市原濬治郎	長崎引地町	鶴野常藏

長崎袋町	滿都家太平治	同米澤	素月晨平	同大手筋	松浦勝左衛門
信州長野	小辨屋喜太郎	岩代會津	八木長八郎	伊勢龜山	渡邊東五郎
山形五日町	八文 字屋	同	田中善平	常州水戸	川又銀藏
同	北國屋彌平治	陸前石ノ巻	三陸屋利兵衛	新瀉東堀通	林富吉
越後新潟	吉川 成藏	靜岡	三浦定吉	越後高田	松原喜兵衛
同水原	西村 六平	越前福井	酒井安兵衛	越前竹生	清水庄平
同三條	樋口小左衛門	同武生	黒田善司	岩代二本松	吉川作次郎
羽後久保田	本間金之助	江州大津	澤宗治郎	岐阜大田町	春屋彦輔
上州高崎	文 心 堂	兵庫瀨岡	由利安助	下總八日市場	木内嘉兵衛
武州川越	菅間定治郎	兵庫瀨岡	金 港 堂	越後中條	村山長太郎
信州小諸	小山九郎兵衛	播州姫路	山野長平	羽前山形	市村五郎兵衛
青森土手町	野崎九兵衛	岡山	世羅田益太郎	因州鳥取	松村三榮言
陸前仙臺	伊勢屋安兵衛	山口中市	阿部準助	鹿兒島	藤井三代之吉
羽後大曲	板屋五郎左衛門	雲州松江	園山喜三右衛門	下總松戸	根本勝之助
和歌山本町	平井 文助	越後長岡	大橋 佐平	岡山	細崎精二
大分京町	山川正三郎	函館	魁 文 社	堺州松山	弘文南社
熊本新二丁目	長崎 次郎	札幌	報 新 舍	堺島横附	土肥與平
福島十丁目	近江屋周吉	泉州堺神明町	鈴木久三郎	越後高田	松村善助
福岡橋口町	山 崎 登	伊勢津東町	淺野 東助	福岡簗子町	古野書店
羽後國横手	渡邊八右衛門	廣島中島本町	秋田惣兵衛	備後三次	林野書店
				同尾道	森藤斧東作
					三木半兵衛



